



No.24

平成24年 1月24日発行

おい町

議会だより

Ohi Town Assembly Official Report



鹿野「きのこの森」

Contents

- 議長 年頭のご挨拶 2
- こんなことが決まりました 3
- 町政ここが聞きたい！（12月定例会） 5
- 議会報告会結果 8
- 研修視察報告 9
- あれからどうなったの？ 11
- 輝く人 12

年頭のご挨拶



おおい町議会 議長

新谷 欣也

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様方におかれましては、ご家族おそろいでお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げますと共に、栄えゆく町の将来を壽ぎ、議会を代表いたしまして謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃は、議会に対しまして格別のご指導ご鞭撻を賜り、お陰様で大過なく新年を迎えることができましたことを心から感謝申し上げますと共に、厚くお礼を申し上げます。

また昨年は、合併後二度目となる一般選挙が行われ、町民の皆様方のご信任をいただきまして、我々十四人の第三代おおい町議会議員が新たに誕生いたしました。

今後は、町民の皆様方の負託に応え、更なる自己改革と議会の活性化に努め、信頼され期待される議会の構築のため、渾身の努力を払って参る所存でございますので、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、その年の世相を表す「漢字」に「絆」が選ばれたことに象徴されるように、

日本国内では、東日本大震災や台風による大雨被害、海外では、ニュージーランド地震やタイの洪水などが発生し、大規模な災害の経験から、家族や仲間など身近でかけがえのない人との「絆」をあらためて知ることになりました。このような環境下ではございますが、本町におきましては、大型事業をはじめとして各施策が順調に進展いたしております。

まず、平成十九年度から整備を進めて参りました「おおい町里山文化交流センター（ぶらっと）」が無事竣工し、昨年の十月に開館できましたことは、誠に喜ばしいところであります。

一方、昨年から有害獣被害防止対策の一環として全町的に始められた山際金網柵の整備は、協議が整った区域から、順次、緩衝帯や金網柵の設置工事が開始されており、早期完成とその効果が期待されるところであります。

地方分権が進展する中、本町議会においては、平成二十三年三月定例会で、約二年半の議会活性化への取り組みの集大成となる「おおい町議会基本条例」を全会一致で制定し、現在、この議会基本条例の規定に基づき、議会報告会を実施するなどの様々な取り組みを行っているところでもあります。

我々議員一同は、改めて議員としてのその責務の重大さを認識するとともに、我がおおい町が更なる発展を期せるよう、議会活動を全うする所存でございます。

結びに、町民の皆様方の益々のご健勝と、ご多幸を心よりご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

8回
臨時会

こんなことが決まりました

12月
定例会

第8回臨時会（11月25日）では、人事院勧告などに伴い町職員の給与を減額するための条例などの改正1件を原案どおり可決しました。

12月定例会（9日～22日）では、一般会計・6特別会計補正予算7議案、暴力団排除条例等の条例制定2件、公立小浜病院組合規約の変更1件、財産の譲渡1件、工事請負変更契約の締結1件、動産の取得1件など13議案を原案どおり可決、監査委員の選任1件に同意、陳情3件を審議しました。

農作物鳥獣害対策に2287万円

捕獲した鳥獣の一時保管用として冷凍車2台などを購入

●平成23年度12月補正予算

所要の経費を追加する一般会計・6特別会計補正予算は、予算決算常任委員会に付託され審議・報告の後、すべて原案どおり可決しました。

■一般会計補正予算

6753万4千円

（賛成多数12対1・可決）

【主な歳出】

民生費

○障害者福祉事務

法律の改正に伴い、障害者自立支援給付システムの改修を行うもの。
340万円

○子ども手当支給事業

支給額の変更に伴い、子ども手当対応システムの改修を行うもの。
また、全体の支給額が減額となる

ことから、町負担額2281万5千円の減額も併せて行われます。

▲2183万4千円

○こども家族館管理運営事業

あそび探検ゾーンに設置してあるボールプールのボールが消耗により減少したことから、不足分12万個を購入するもの。
301万3千円



ボールが不足しているボールプール

農林水産業費

○農作物鳥獣害対策事業

若狭町で整備が進められている有害獣処理施設が供用開始された後の処理方法として、捕獲した鳥獣の一

時保管や運搬するための、冷凍車2台などを購入するもの。
2287万7千円

○鳥獣被害防止緊急対策事業

金網柵と併せて設置する緩衝帯の整備が、幅員や取り組む集落の増加により、当初想定していた面積を超えること、また、雑木や竹の伐採には想定以上の労力と時間を必要とするため、工事単価を引き上げることに伴い、整備費を増額するもの。
5579万4千円

○農業用河川工作物応急対策事業

県が実施する広岡頭首工の応急対策工事の町負担金として、8%相当を負担するもの。
168万円

○治山事業

県の補助事業に採択されたことにより、西廣寺裏（野尻地係）の治山工事を行うもの。
150万円

○漁業集落環境整備事業

宮留地先（大島地係）の公有水面埋立工事を実施するための設計監理などを行うもの。
350万円

こんなことが決まりました

土木費

○道路新設改良事業

県が実施する道路新設改良工事（赤礁崎公園線・小浜綾部線）の町負担金として、10%相当を負担するもの。

259万6千円

○急傾斜地崩壊対策事業

県が実施する清水地区（川上地区）急傾斜地崩壊対策工事の負担金など。

211万4千円

教育費

○名田庄総合施設整備事業

里山文化交流センターの駐車場用地のうち、借地であった665㎡を購入するもの。

1255万7千円

災害復旧費

○現年発生林道施設災害復旧事業

林道大津呂線（野尻地係）の災害復旧工事を行うもの。

1300万円

特別会計補正予算

（すべて全会一致・可決）

○国民健康保険事業特別会計

80万8千円

○国民健康保険診療事業特別会計

▲53万9千円

○介護保険事業特別会計

▲532万3千円

○介護サービス事業特別会計

▲19万5千円

○簡易水道事業特別会計

▲27万8千円

○農業集落排水事業特別会計

253万7千円

●識見監査委員の選任



辻 勲 監査委員

任期満了に伴い、辻勲氏（石山）を再任するもの。

なお、今期の任期は、平成24年1月1日から平成27年12月31日までの4年間となります。

（全会一致・同意）

本町のし尿処理問題を解決

名田庄東部浄化センターし尿前処理施設が完成

総務常任委員会議案審査結果

総務常任委員会では、付託された議案4件と、陳情2件を審査しました。

その結果、議案はすべて原案どおり可決され、陳情はすべて継続審査とすることに決定されました。

【審査された主な議案】

●暴力団排除条例を制定

本町から暴力団を排除するため、その基本理念や町・町民などの責務と基本的施策などを定める条例を制定しようとするもの。

（全会一致・可決）

●なごみ診療所の医療情報画像保管システムを1417万5千円で更新

医療用機械器具更新計画に基づき、なごみ診療所の医療情報画像保管システムをパナソニックメディアカルソリューションズ株式会社から購入するもの。

（全会一致・可決）

産業建設常任委員会議案審査結果

産業建設常任委員会では、付託された議案2件と、継続審査となっていた陳情1件を審査しました。

その結果、議案はすべて原案どおり可決され、陳情は趣旨採択することと決定されました。

【審査された主な議案】

●名田庄東部浄化センターし尿前処理施設の設置・管理に関する条例を制定

名田庄三重地係で整備が進められていた、し尿前処理施設がこの12月で完成し、本年4月から供用が開始されます。

（全会一致・可決）



完成したし尿前処理施設

町政二こが聞きたい!

12月定例会では、7人の議員が一般質問をしました。

■新年度予算の編成方針は

町長 的確に動向を見極め柔軟に対応していきます



古石 實

問 福島原発の事故により、定期検査終了後の原発稼働が困難な状況ですが、そのことを踏まえた平成24年度予算編成方針は。

答 (町長) 原子力行政が混迷している中で、財政収入減少する可能性も想定し、貴重な財源の効率的・効果的な配分に徹し、柔軟かつ堅実性を持った予算編成を行います。

問 将来的に収入減が心配される中、いわゆるハコモノ行政から脱却が必要だと考えますが。

答 (町長) いずれは脱却しなければいけません。現在計画の中のもの、引き続き実施していきます。

■町職員へのメンタルヘルスケアは十分ですか

町長 早期発見・早期治療に努めています



浜上 雄一

問 町職員は町にとっての財産です。衛生管理者の選任を検討し、職員のメンタルヘルスケアを推進する必要があると思います。現在、町では「心の健康づくり対策」にどのように取り組んでいますか。

答 (町長) 全職員対象の健康診断は無論のこと、特にメンタル面では、年齢や職責に応じて県自治研修所でメンタルヘルス関連講座を受講し、心の健康の保持や増進を図っています。

また、県市町村職員共済組合が発行している情報誌でも、無料電話相談やカウンセリングが利用できることを周知しています。

■原子力災害に対応する避難道路の整備は

町長 効果的で安全な道路になるよう要請していきます

問 大島半島で計画されている避難道路多重化の内容は。

答 (町長) 福井県では、発電所までのアクセス道路の多重化の方針のもと、昨年9月に測量調査や道路概略設計業務を発注され、様々な検討をされていると聞いています。町としては、この道路が最も効率的で安全などに配慮されたものとなるよう、関係機関に働きかけていきます。

問 道路終端が高浜町になるのは、安全・防災面や本郷地区への経済面を考えるといかがなものかと思えますが。

答 (町長) 本郷地区に直接接続することは重要ですが、まず迂回路による多重化された災害対策道路を整備するという点を最優先に考えます。

■原発運転停止に伴う地元への影響と対策は

町長 影響を最小限に留めるよう事業者に要請しています



今川 直樹

問 本町でも、原発の運転停止に伴う経済や雇用などへの影響が拡大していますが、その対応は。

答 (町長) 停止中だからこそできる機器の修理や点検、緊急安全対策、防波堤高上げ工事など、それらの作業・工事が平準化して実施されるよう事業者に要請しています。また、町内消費を喚起するための施策としてふるさと商品券を発行するなど、商工会と連携しながら地元経済への影響を軽減していきます。

問 町民の不安を解消するため、相談窓口を設置するなど、見える形の対応が大切で、もっとしっかりした対策が必要では。

答 (町長) 今後の推移を見ながら対応していきます。

■高齢者の生活を支援する組織に補助すべきでは

町長 営利補助とならない仕組みが必要で、現時点では難しい



森口 精治

問 山間地域では、過疎化が一段と進み、高齢者が日常生活を送る上で深刻な状況となつてきています。

答 買物弱者は、全国で600万人に及ぶと言われていますが、今回、佐分利地区で移動販売業務を通して高齢者の生活を支援するボランティア団体が組織され、活動を始められました。

問 この団体に、行政は支援の手を差し伸べるべきだと思いますが、町長の所見は。

答 (町長) このような積極的な取り組みが地域で広がることは、非常に心強く、また期待しているところです。

町では、新たに、高齢者に対して

「食」と「買物」の支援事業を検討しているところです。それが、移動販売業者への支援にも繋がると考えています。

問 過疎や高齢者対策などの地域で手に負えない課題は、本来なら行政が担うべきですが、今回は、現状を見かねた住民が立ち上がったものです。

答 (町長) 先進的な地区の取り組みは、今後の参考としていきたいと思いますが、「佐分利地区の高齢者を支援する会」から要望があった移動販売者購入への補助は、一事業者への営利補助とならない仕組みが必要であり、現時点では難しいと考えています。

■県嶺南地域企業誘致戦略に対する町の受け入れ態勢は

副町長 うみんびあ以外での対応も可能です

答 (町長) 地元への影響が軽減されるよう配慮いただいています。

問 企業誘致は町の根幹政策です。誘致担当者に専門的知識を持つプロの専任官を迎え、助言を受けたらどうか。

答 (副町長) 企業誘致は厳しい状況ですが、今のところそうした考えはありません。

問 遅延している㈱ナフコ立地の進展状況は。

答 (町長) 担当役員から事業は後退も停滞も無いと聞いています。

賑わい創出施設で町の活性化を成功させるための方策を問う
町長 町民多数の参加で成功させます



猿橋 啓一

問 この事業は、絶対に成功させなければならぬと思っております。成功の鍵は、特に直売所への出品者の参加と豊富な品揃えができるかにかかっていると思いますが。

答 (町長) 商工会や観光協会、漁協、JA、森林組合などの団体のほか、多くの町民を対象に出荷説明会を開催し、参加を呼び掛けています。

問 説明会の参加者が少ないようですが、今後の対策は。

答 (町長) 町内で説明会を5回開催し、92人の参加者がありました。

今後、ビニールハウス整備の助成や集荷システムの検討をして、継続的に説明会を開催し、この事業に関

心を持ってもっていただくようPR活動を進めていきます。

問 施設の規模や建物の大きさ、施設内の配置などは十分検討されていますか。

答 (町長) 最大限に利用し、飲食や物販、休憩スペース、厨房、バス乗務員控室など、各ブースの配置は機能性に配慮した計画としています。

直売所約170㎡や、食事などのための約260㎡のフードコートを設置する計画です。

問 持ち込み品の販売手数料、また出品者への支払いは。

答 (町長) 手数料は売り上げの15〜20%で、支払いは月2回を予定しています。

問 生産、加工、販売の第六次産業で町興しができる投資効果のある施設だと思いますか。

答 (町長) 地産地消を基本に、ゆつたりと安らぎのある空間で多くの人が訪れる施設にしていきます。

原発の安全性確保と地域振興への対応は
町長 国が責任を持って取り組むべきだと考えています



中塚 寛

問 原子力発電所誘致を決定する際に約束された国の二元管理の内容はどのようなものでしたか。

答 (町長) 原子力の推進、安全規制、防護対策などを国が責任を持って取り組むことになっていきます。

事故の補償においても、事業者には支払い能力がない部分は、国が肩代わりすることになっています。

問 地域住民の不安払拭のため、また、立地町として、もっと主張すべきだと思いますか。

答 (町長) これまでから、言うべきことはきちんと行ってまいりました。結果として、経済産業大臣から「これまで立地自治体と約束してき

た責任と信頼関係を踏まえた上で対応していきたい」との返答をいただいています。今後とも、継続して要望していきます。

問 原子力発電所立地に関する財源の確保と、地域経済への対応策を国に要求すべきでは。

答 (町長) 国の新しい原子力政策での位置づけに期待してまいります。

協働社会の構築が急務では
町長 対等な立場で取り組む必要があります

問 地域づくりに欠くことのできない協働社会の構築をどう認識していますか。

また、情報の共有が必要だと考えますが。

答 (副町長) 公的な責任には限界があり、対等な立場で住民の皆様とともに地域づくりに取り組んでいく必要があると考えています。

町政のごが聞きたい！

■大飯幼稚園廃園は問題では

町長 十分検討して最終判断をします



猿橋 巧

問

町立大飯幼稚園は、幼児教育の質の向上へ寄与とされ保護者からも評価が高く、存続を希望する意見が出ています。

一度廃園したら再開は困難であり、募集方法や振興策を講じて存続すべきでは。

答

(町長) 入園者が減少しており、経営は非常に厳しい状況です。いろいろな意見を踏まえた上で十分検討し、最終的な判断をしていきます。

■原子力行政の問題点を質します

町長 国策動向を注視しながら、対応していきます

問

ストレステストの結果だけをもって発電所を再稼働させ

せることは、あり得ないことだと思いますが。

答

(町長) 再稼働の条件として、国が新たな安全基準を提示する必要があると考えています。

問

9月定例会で、老朽化原発の新規置換を示唆する答弁がありました。町民の意思不在で乱暴では。

答

(町長) 今後も原子力発電が必要とされるのなら、より安全な最新技術を投入したプラントに置き換えるべきであるという私見であり、現段階では議論できる状況ではありません。

問

原子力災害に対する防災計画見直しへの対応は。

答

(副町長) 新たな安全対策基準が示されない中で、防災対策範囲の拡大のみが出されたことは遺憾です。国・県の防災計画の見直しに基づき、対応していきます。

※その他、町内一斉社会奉仕作業の見直しや林業振興策の推進についても質問をしました。

「議会報告会」を開催しました

10月11・21日、町内4会場で「議会報告会」を開催しました。

平日の夜にもかかわらず、多数のご参加をいただき、本当にありがとうございました。

アンケートも含めて、今回いただいた貴重なご意見を真摯に受け止めて、今後の議会活動に活かしていきます。

また、すべてのご意見を各委員会で調査・取りまとめをし、町議会ホームページでご報告します。なお、次回第4回議会報告会は、4月頃を予定しています。

■報告事項

- ・議会基本条例の制定
- ・当初・補正予算主要事業
- ・3・6・9月議会の報告
- ・福島原発事故への対応

■皆様からの意見・ご質問

- 【原子力発電所について】
 - ・福島原発事故への対応強化
 - ・保安院の説明公開
 - ・町財政への影響予測

【議会運営について】

- ・地域経済・雇用影響調査
- ・防災道路の複線化
- ・原子力防災計画の見直し
- ・原発再稼働への見解

【町行政運営について】

- ・一般質問長時間化の改善
- ・南浦分譲地事業の説明不足
- ・地域防災計画の周知徹底
- ・自主防災組織事業の全町化
- ・要援護者台帳作成の説明不足
- ・林道維持管理の充実
- ・鳥獣被害調査と対策強化
- ・コミュニティバスの改善

【国・県への要望】

- ・県道坂本高浜線二期工事推進
- ・嶺北地域との格差解消



10月に開催した第3回議会報告会

市町議会議員合同研修会報告

【研修日時】平成23年11月2日

【参加者】議員14人

【研修場所】福井市 福井県自治会館

議会は首長と善政競争を

本研修は、「地方議会の現状と求められる議会のあり方」という演題で、早稲田大学大学院公共経営研究科教授 北川正恭氏によって行われました。

その内容は、「近代日本は、明治維新により中央集権化を達成した。その体制が百数十年継続した結果、東京に1300万人もの人口が集中し、地方が疲弊する弊害が出てきている。ここから脱却するには中央集権を今一度見直す時期に来ている」というものでした。

中央集権を見直すということは、地方に権限を委譲すること、ことに他なりません。つまり、機関委任事務の廃止や財源の委譲といったことが実行されていくこととなります。

したがって、地方は自ら考え責任をもって実行しなければならなくなります。言い換えれば、首長・



北川正恭教授の講演

議会は、自ら責任を持って行動しなければ、その自治体は消滅への道をたどるといふ可能性があるとのことです。

それを防止するためには、首長と議会はお互いに切磋琢磨し、適度な緊張関係をもって、善政競争をしなければならぬということを系統的に学習した研修会でした。

議員全員研修視察報告

【研修日時】平成23年11月9日～11日

【参加者】議員14人

【研修場所】北海道 福島町・泊村・恵庭市

先進的な改革を進める議会

福島町議会では、早くから議会改革に取り組み、「開かれた議会づくり」を基礎として議会基本条例の制定をはじめ、通年議会の導入や議会白書の発行、議会評価制度の導入など、先進的な議会活性化に取り組んでおられます。

議会・議員としての使命と責任を強く自覚し、限りなく主体的で機動的な活動をされています。

エネルギーのふるさと村

泊村は、北海道で唯一の原子力発電所を立地する村で、「エネルギーのふるさと」として発展しています。

光ファイバーを活用した情報化事業の推進など、生活環境を整えることにより、村民が住みやすい地域づくりを進めておられます。

全道の消費電力の40%を賄う原子力発電所は、北の大地の産業を力強く支えています。

また、プルサーマル計画は、現在、国の第二次審査中とのことでした。

全国有数のガーデニングのまち

恵庭市は、「花のまちづくり」を地域おこしの中核として、各種行政事業計画に生かされており、また、総合的な住民活動が感じ取れました。



福島町議会で先進的事例を吸収

議会運営委員会研修視察会報告

【研修日時】平成23年11月21日・22日 【参加者】委員6人
 【研修場所】神奈川県議会・神奈川県開成町議会

議会改革の先進地を視察

○神奈川県議会 菅原直敏議員

菅原県議からは、7月に開催されたマニフェストサミットで発表された議会改革に関する50の提案をするにあたっての経緯や提案書の内容を、詳細に説明していただきました。

50の提案では、議会基本条例制定後、各条文を具現化するための目的や現状、効果、財源、費用が詳細に述べられています。

提言書の内容は、県議会規模だけでなく、小さな町の議会にも当てはまる点が多くあり、本町議会も議会基本条例制定後、条文の具現化の取り組みをしている中で、参考資料として大いに活用できると思います。

多くの意見交換もでき、新しい知識も教わった有意義な時間でした。

○開成町議会

開成町議会基本条例は、二元代表制の立場から議会の議決権に「教育振興計画の策定」を加えている点が特色だと言えます。

議会広報も充実しています。年4回の広報誌は、町民に伝えるべき情報や議会の審議内容、議会活動などを詳しく載せ、その都度必要に応じてページ数の増減もあります。この手法は見習うべきものがありました。

今回の研修で、議会は住民のためにあることを常に念頭に入れて活動しなければならないことを再認識しました。



意見交換後、菅原県議を囲んで

原子力発電対策特別委員会研修視察報告

【研修日時】平成23年12月5日・6日 【参加者】委員7人
 【研修場所】宮城県女川町・宮城県女川原子力発電所

防災から減災へ

東日本大震災で被災した宮城県女川町では、同じ原子力発電所立地の町という視点から研修視察を行いました。

女川町では、このような大災害のもとでは完全な防災というものは不可能ではあるが、生命は守るという減災の考え方を導入し、被害を受けた市街地の高上げ工事を計画されています。

この工事は、1400億円という莫大な金額がかかり、一自治体だけでは対処できない状況で、国による一刻も早い復旧、復興支援が必要だと強く感じました。

安全の追及が成果を

女川発電所は、今回の地震・津波に対して、冷温停止状態にすることができました。これにはいくつかの理由があります。

第一に、東北電力は中越沖地震の事例研究を行い、耐震補強に努



手前は津波で倒れたビル

めたこと。第二に、歴史上の地震に起因する津波の調査を丹念に行い、その知見を増設工事の津波対策に反映させたこと。このことが13m超の津波に対する被害を最小化するのに大きく貢献しています。

これら普段からのたゆみない安全の追求が、今回の大震災に生かされていると強く感じました。

【記事の訂正】

第23号10ページに掲載の「町村議会広報研修報告」の記事中、研修日時「5月12日」は「7月28・29日」の誤りでした。訂正してお詫び申し上げます。

追跡

1年前の一般質問

あれからどうなったの？

a follow-up survey

議会だよりでは、定例会での一般質問の要旨を掲載していますが、議員からの提案などが、その後、どのように町政に反映されたかを、追跡調査してみました。今回は、平成22年12月定例会からピックアップしました。



地産地消の生産体制の構築は

名田庄西谷地係で整備が進められている農産物加工施設へ供給する農産物の生産体制や生産量は十分ですか。

(渡辺 均議員)

農林水産振興課長
答 弁

特産品生産体制を強化します

加工用野菜、特にキュウリは7割程度しか地元で確保できていません。

生産者・事業者・消費者が一体となって地域の自給力を強くすることが必要です。

どうなった？

協議会で推進計画を策定

平成24年度の施設供用開始に向け、本年度中に「食育・地産地消推進協議会」を立ち上げ、消費者グループなどの組織と連携しながら計画を策定します。



4月に供用開始される予定の農産加工施設



名古屋市立中学校の生徒が田植作業に挑戦



自然体験型観光の推進状況は

体験型観光は、本町の豊かな自然を生かす有効な手段だと思いますが、現在の推進状況はどうなっていますか。

(小川 宗一 議員)

商工観光振興課長
答 弁

誘客活動に努めています

観光資源の充実や農林水産業との連携を強化するとともに、県外小中学校を対象して、教育研修旅行の誘客活動に努めています。

どうなった？

修学旅行の受け入れが実現

関係者の懸命な努力により、名古屋市立中学校の修学旅行受け入れが実現し、3年生71人がおいしい自然を満喫しました。

あれからどうなったの？

やまびこコーラス 代表 上中 孝子さん

思いきり歌いたい！何よりも歌が好き！そんな人たちが集まったのは、昭和56年7月、教育委員会の呼びかけがきっかけでした。人口3千人余りの名田庄に、初めて女性コーラスが生まれました。

それから30年、当初娘だった人は母となり、子育て真っ最中のママさんコーラスは、いつしかシルバーコーラスに近くなってきました。

長年の夢であったホールが昨年の10月に完成し、団員一同ピカピカのステージに立ち、合唱した時の喜びは今も忘れることができません。

このステージに立つたびに、心地よい緊張感とともに、一生懸命練習に励んで美しいハーモニーをつくりたいと、意欲がいっぱい湧いてきます。

合唱活動をする中で、何よりもうれしいことは、私達の合唱を聞いて、子どもも大人も歌と一緒に口ずさんでくださったり、元気な笑顔を返してくださったりした時です。

私達が大切にしてきたものは、団員が心をつなげて歌い続けてきた曲です。幼い頃の子どもの歌、女学生の頃の青春歌、フォーク、ポップス、甘く切ない愛の歌、世界の民謡など、今では300曲余りになり、その一曲一曲に思い出があり、30年間の宝物になっています。

この4月21日に記念コンサートを開こうと、今、皆で準備をしています。やまびこコーラスの30年を振り返りながら、懐かしい曲もプログラムに入れたと思っています。

ささやかな合唱活動ですが、これからも町の中に明るさと喜びの文化の灯をともしたいと思っています。

（【指揮】上中きみ子 記）



3月定例会の予定

会期：3月1日から22日まで（22日間）

本会議：1日（議案提案理由説明）、13日（一般質問）、22日（採決）

委員会：総務・産業建設常任委員会（8日）、予算決算常任委員会（1・6～21日）



広報特別委員会委員一同

町民の皆様には、ご家族おそろいで新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。今回の議会だよりは、議長の年頭挨拶や12月定例会で審議した補正予算などの議決結果、7人の一般質問等で構成されています。本年も議会活動内容をなるべく詳しく町民の皆様にお伝えできるよう紙面つくりを進めてまいります。昨年10月には、議会報告会を開催させていただきました。多数の貴重なご意見をいただきました。今後、いただいたご意見に対する見解を、ホームページなどに掲載するようにいたします。（松宮 記）

かがや 輝く

チーム三カ条を忘れずに！

本郷スポーツ少年団野球部 監督 山田 哲史さん

本郷スポーツ少年団野球部（本郷イーグルス）は、本郷小学校の生徒を中心に24人の子供達と3人の指導者が、毎週火・木・土・日・祝日と元気一杯日々の練習に励んでおられます。

チームポリシーは、第一に「試合の結果は、日々の練習で決まる」、第二に「チームワークを大切に、基本を中心とした練習で1人1人の能力を高め、これらを結集すればおのずと目標を達成できる」として、基本重視の地に足が着いた野球を目指しておられました。

また、本郷イーグルスには「チーム三カ条」という掟があります。①道具を大切にする、②練習後のグラウンド整備をしっかりと、③大きな声で挨拶するというもので、昨今の大人でさえ忘れがちな礼儀や作法といったものを大切にしているチームでした。

最後に監督に課題と目標をお伺いしました。

「年々部員数が減少してきていることや、子供達の体の柔軟性や体力が落ちてきていることが気がかりです。今後は、これらの課題を一つ一つ克服していくことで郡大会を勝ち抜き、春のマクドナルド杯県大会に出場することです。その過程で相手のことを思いやれる心もつくってほしいです。最終的には、野球だけでなく勉強を含めた全てのことに対して努力することの大切さを学んでほしいと思います」

（松宮 記）

議会の傍聴に来てみませんか

おい町議会では、本会議をはじめ議員全員協議会や各委員会も公開しています。

次回の定例会は3月です。傍聴について詳しくは議会事務局（77-1111 内線312）までお問い合わせください。

【編集後記】

町民の皆様には、ご家族おそろいで新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。